

新品種 つる シマサルナシ「みえ紀南蔓1号」

シマサルナシとは

- ◆日本の太平洋沿岸などに自生するマタタビ科の蔓性植物です。
- ◆サルナシの近縁種で暖かい地域に自生しています。日本での自生は東紀州地域以南の西南暖地で確認されており、熊野市近辺の地域では数系統自生が見られます。三重県では絶滅危惧種に指定され、県のレッドデータブックにも記載されています。

三重県では、2005年から「シマサルナシ」の研究に取り組み、熊野地域に自生する数系統から優良な系統を選抜し、「みえ紀南蔓1号」として品種登録しました。また、安定生産のための栽培技術や加工品の開発、機能性の解明にも取り組み、産地化に向けて推進を図っています。

「みえ紀南蔓1号」

- ◆果実はキウイフルーツより小さく30g程度です。成熟期は11月頃ですが、樹上では熟さないため、収穫後のエチレン処理により食味が向上します。糖度は15度程度となり酸味も少なく美味です。栽培面では、受粉が必要ですが、雄株を混植することで自然受粉が可能で、着果性は良いです。



着果の様子

果実の大きさと切断面



開花の様子



表1 「みえ紀南蔓1号」の一代目樹における果実品質

品種名	調査日	1果実重 (g)	果径(mm)		偏平率 (%)	糖度 (%)	酸含量 (%)
			タテ	ヨコ			
みえ紀南蔓1号	H22年11月26日	31.6	41.0	34.1	120	15.5	1.43
淡路(対照)	H27年12月10日	11.6	28.9	24.3	119	10.1	1.55

- 1) みえ紀南蔓1号の収穫日は、H22年11月16日
- 2) 淡路の収穫日は、H27年11月20日

表2 「みえ紀南蔓1号」のビタミンC含有量

処理区	還元型ビタミンC含量
	(mg/100g fresh weight)
みえ紀南蔓1号	553 a
シマサルナシ系統No.10	243 b
ハイワード(市販品)	320 b

有意性 **
同一列の異なる符号間に有意差有り(Tukey, **1%水準)

「みえ紀南蔓1号」の栽培メリット

★1 高い収益性が期待できます

10aで最大1.5トン程度収穫が見込めます。1果30g程度なので**50,000果**の収穫となり、1果の単価を**10~20円**とすると**50~100万円/10a**の粗収益が見込めます。

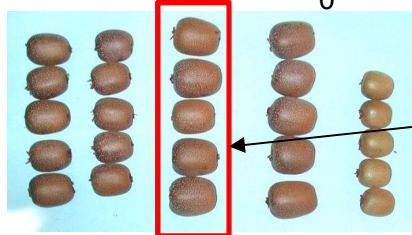
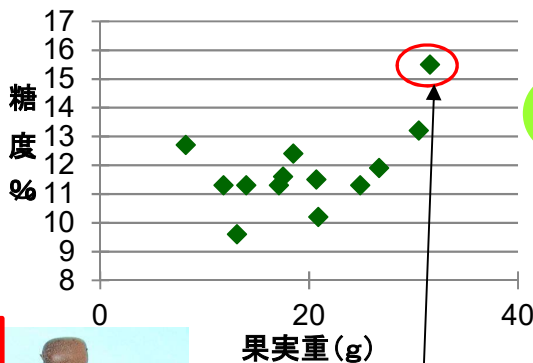
★2 安定生産が可能です

樹上では果実が熟さず硬いため、サルや鳥の被害に合わず毎年**安定して収穫**が可能です。

★3 低コスト生産が可能です

自生種なので病害虫に強く、**農薬散布**は年1回のカイガラムシ防除のみで、**低コスト、省力的**に栽培ができます。

熊野地域の自生系統の果実重と糖度調査結果



みえ紀南蔓1号

緑色が濃く果実が小さいので、輪切りのカワイイ形がそのまま映えます! ケーキ等にかが!?

加工品の例



程よい甘みとつぶつぶ食感のジェラード

緑色が映えるショートケーキ



果実丸ごと大福

果肉入りゼリー



プチプチ食感グミ